

第四日、漸く先生の寸鐵評語が身にしみた、兎に角に苦勞したのである、最初から講師にのみ依頼して、上手になるだろうと思つたのは誤りて、乳を飲む小兒は乳を飲むとを意識して後に飲むのである、いくら母が與へても飲むとを知らない小兒は成長しない、到底自助である、先生は進路を指示し研究の方法を誤らない様にするのである、吾人は精緻穩健の考を以て溘々として努めねばならない。

美術は絶體價值のものである、烈士義人の行爲も道德の名に由て傳られてあるが、其實一種の美的である、道德も醇粹生命あるものは美的活動に依て始めて得らるのである、其道に就くや烏の埒に歸るが如きに到るは、藝術を透して獨り得らるゝものではなかるうが、余は講習中自己の愚なるを知得たのである、誠に天の時を得地の利を得、而して人の和、又有りし講習會で在た、而して又趣味ある避暑法で、又練想の教育であつた、氣の毒なのは塵表閣の主人で、酒が少しも賣れなかつとこぼした。

(終)

小樽より

拜早益々御清榮奉賀候、陳者去る八月中設立いたし候『白百合會』は、本月三日天長の佳節を下して、小樽英和學校に第一回展覽會を開催いたし候、其折は小樽新聞記者松田竹嶼氏に依頼し、先生の御高作三葉拜借いたし難有御禮申上候、先生の御作は右の外藤野羊蹄氏所有の九つ切位の『川邊の夕暮』の圖有之

候、以上の四葉有之候爲め錦上に花を添へ誠に御見事の御作と奉存じ候、先生の御作の拜見いたし心に期し候は眞面目と忠實の一事に候、あまり言多くはいたさず候らへ共、今後は不言の教に従ひ眞面目と忠實を旨と可致候。

白馬會會員田中寅三氏、高橋勝藏氏の水彩及び油繪、同じく白馬會々員にて美術學校生徒なる長谷川昇氏、小樽中學圖畫教師關精一氏の油繪の出品有之候、其他會員の作品水彩、油繪、チヨーク、木炭畫等有之合計五十點計りに候、洋畫展覽會としては今回が始めに候爲め頗る盛會に御座候。

第二回は明年四月の筈に御座候、其折は第一回に増し盛會を期し申し候。

鈴木 登

安中みずゑ會記事

三十六 公

本會設立に就いて其の種蒔をされたのは根岸君で適度の溫熱と濕氣とを與へて其の萌芽を見る事を得させたのは丸山先生である吾々會員は兩氏の勞を決して忘れてはならない。満山紅を染むる霜月二十七日は本會第一回の開會で有つた待ち焦れた丸山先生に接して居る間は僅かに數時間で有つたが其の得た知識は實に多大で有つた事を皆喜んで居る。斯く多大の結果を得たのは勿論講師の手腕に因るのであるが又一つには會員の熱心と其の方法が良かつたからであらう。午前に作品批評と講話をされ